
2020 年度

日本科学未来館 活動報告

2020年度 日本科学未来館 活動報告

先端科学技術と人とをつなぐための拠点として、日本科学未来館が2020年度に取り組んだ活動の一部を紹介します。

I. 活動報告

1. 科学をつたえる

① 展示活動

■ 新型コロナウイルス感染症対策と科学コミュニケーション	1
■ 地球規模課題の解決 / ジオ・ツール 調査・開発	1
■ 常設展示制作	1
■ 企画展・特別展	2
■ 外部連携イベント	4

② 対話活動

■ 先端科学技術に関する時宜をとらえた活動	5
■ 先端科学技術に関する定常的な対話活動	7
■ Miraikan フォーカス	7

③ 情報発信

■ 来館者にとどまらない情報発信の推進	8
---------------------	---

④ 普及展開

■ 国内外の科学館等への普及・展開	9
■ SDGs の達成に向けた東京プロトコールに基づく活動成果の普及・展開 / プログラムのオープン化の推進等	10

2. つながりをつくる

① 対話・協働の場の提供

■ 未来社会と先端科学技術とのかかわり・あり方について考えるプログラム	11
■ Society5.0の実装に向けた、情報科学技術と社会の関係性について考える対話の場の創出	12
■ 外部機関連携イベントの開催	12

② 共創の推進

■ 多様なステークホルダーが参画した政策形成・知識創造・社会実装・研究開発推進に資する活動の推進	14
■ 科学技術による未来社会への貢献を示唆するプログラム開発の推進	14
■ フロア活動で得られた来館者の声を活かすプログラムの企画・開発	14
■ 科学館関係者・教育関係者、研究者との連携	15

③ 国際展開と発信

■ 世界の科学館ネットワークと SDGs 達成に向けた対話・協働の場の創出、シチズンサイエンスに向けた取組の推進	16
■ ウィズ / ポストコロナにおける科学館としての新たな役割と展開に係る国際的な情報共有と対話・協働の場の創出	16
■ 来賓を通じた活動の発信	17

3. 人材を育てる	
■ 科学コミュニケーターの育成と輩出	18
■ 日本科学未来館の科学コミュニケーター（2020年度在籍）	19
4. 未来館運営の基盤整備	
■ 多様な来館者への接遇強化	22
■ 施設運営における新型コロナウイルス感染症拡大防止への取組の強化	22
■ 非英語圏外国人への対応整備	22
■ インクルーシブな環境整備に向けた各種設備の更新・改修	22
■ Miraikan ビジョン 2030 の策定	22
II. 事業評価	23
III. 来館者データ	24

I 活動報告

1. 科学をつたえる ① 展示活動

ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた、地球規模課題の解決に向けた科学データの可視化および、社会課題と科学技術がもたらす未来を考える場の醸成のための効果的な展示手法の開発と制作を行った。

■新型コロナウイルス感染症対策と科学コミュニケーション

▶スローガン「risk ≠ 0（リスクはゼロではない、だから）」を冠した感染対策サイン
新型コロナウイルス感染対策ガイドラインおよびマニュアルの下、スローガン「risk ≠ 0」を冠した感染対策のサインを計 70 種作成し、館内各所に掲示。来館者の来館時および来館後の行動変容を促した。



館内に掲出したスローガン

▶対策を兼ねた科学コミュニケーションの展開
来館者の行動変容を強化するために、理化学研究所のスーパーコンピュータ富岳によるシミュレーションデータを使った、飛沫飛散のマスクの有無の比較動画をオリジナルで制作し、常設展内に期間限定で展示した。また、新型コロナウイルスのふるまいをウイルス自体の視点で表現し、注意喚起を行うポップを館内に掲出した。



等身大で見る飛沫シミュレーション



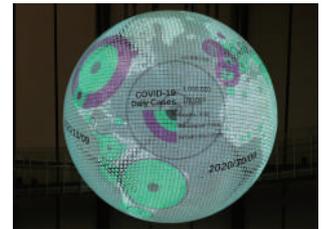
「新型コロナウイルスのキモチ」スイングポップ

■地球規模課題の解決 / ジオ・ツール 調査・開発

▶Geo-Cosmos 新規コンテンツ「COVID-19 Daily Cases 日々の感染者数」
新型コロナウイルスによる感染症が世界的に蔓延している状況を踏まえ、感染拡大の様子を示すデータを Geo-Cosmos で表現。Johns Hopkins 大学が集計したデータを用い、感染者数等の推移を準リアルタイムで表示する。

公開：2021年2月～

データ提供：Johns Hopkins University



「COVID-19 Daily Cases 日々の感染者数」

▶Geo-Scope
各研究機関と協力しながら、地球環境に関する最新の研究成果をコンテンツに追加、更新した。

・新規コンテンツ「日本の消費にともなうカーボンフットプリント」
日本及びその他の国々で消費する商品やサービスにともなって排出される CO₂ 排出量に、消費に付随する工場の移転や輸出入による量も含めることで、グローバルチェーンにおけるカーボンフットプリントの変化を可視化。

公開：2021年3月～

データ提供：総合地球環境学研究所



「日本の消費にともなうカーボンフットプリント」

■常設展示制作

▶「100億人でサバイバル」新規コンテンツ追加
東日本大震災で発生した福島第一原子力発電所の事故でもたらされた被害とその後の事態の進展についてタッチパネル端末で学べる展示「ハザードを5つの段階でとらえる—福島原発事故を例に—」を追加。

公開：2020年9月～

科学監修：勝田忠広（明治大学法学部 教授）



「100億人でサバイバル」新規コンテンツ

▶新常設展示「“ちり”も積もれば世界をかえる」

基礎科学が私たちの世界観を更新していることを知り、未知の領域を探索する研究活動の価値について考える展示。地球深部探査船「ちきゅう」や小惑星探査機「はやぶさ2」、電波望遠鏡「アルマ」の事例を通して、今まさに空間的・時間的に人類の知を開拓している科学の最前線を、研究者と同じ視点で体験できる。

協力機関：海洋研究開発機構（JAMSTEC）、
宇宙航空研究開発機構（JAXA）、国立天文台（NAOJ）
公 開：2021年3月～



「ちり」も積もれば世界をかえる」1



「ちり」も積もれば世界をかえる」2

▶「ビジョナリーラボ」第2期展示「知脳を〇〇するー脳をみて、脳をつくる研究者たち」

東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構（IRCN）、乃村工藝社と連携した共創展示。脳研究と人工知能（AI）研究の融合によってどのようなビジョン（＝理想の未来像）を切り拓くことができるのか、最先端研究から「知性」についての新しい視点を獲得し、脳の大きな可能性をともに探っていく展示を公開。

企画制作：日本科学未来館、IRCN、株式会社乃村工藝社
公 開：2021年3月～



「ビジョナリーラボ第2期」1



「ビジョナリーラボ第2期」2

▶「零壹庵」『AKIRA』の音 不朽のアニメ映画を彩る未知のサウンド

映画「AKIRA」の音楽をフィーチャーし、芸能山城組と連携し制作した新規展示。映画「AKIRA」の音楽は、作曲家であり科学者でもあった山城祥二氏独自の制作手法とフィールドワークで収集した世界の民族音楽の手法をもとに生まれた。本展示では、その制作背景の展示映像を通して、科学や研究が、アートに対してどのような貢献ができるのか、「AKIRA」の映画音楽を例に読み解く。

総合監修：伊東順二（東京藝術大学 COI 拠点 特任教授）
特別協力：芸能山城組（山城祥二、仁科工三）
企画制作：日本科学未来館
公 開：2021年3月～



『AKIRA』の音」1



『AKIRA』の音」2

■企画展・特別展

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新たな科学館の展示活動・科学コミュニケーションのあり方を試行する企画・開発を行った。

▶新しい生活様式における科学館の楽しみ方シリーズ

世界中で猛威を振っている新型コロナウイルス感染症により、未来館をはじめとした集客施設の休館やイベントが中止され、さまざまな経済活動、文化・教育活動、そして我々の日常生活行動さえもが、厳しい制約を受けることとなった中で、ニューノーマルな空間利用のあり方、コミュニケーション企画・事業のプロトタイプングを目的とし、新型コロナウイルスとともに生きる時代の、広く安全な展示空間を活かした新しい科学館の楽しみ方を、シリーズとして提案した。

・第1弾：空間インスタレーション「ひらめきの庭」

十分なソーシャルディスタンスが担保できる広大な展示場を活用し、「散歩」をテーマにした音と映像の空間インスタレーションを企画。科学者が残したひらめきの言葉と出会う「ささやきのベンチ」、AIや人間が演奏し、音楽を通して来場者が体験を共有する「ときめきのピアノ」など、空間を自由に歩き回ること、ひらめきを見つける癒しの散歩体験を提供。

会 期：2020年8月8日～30日
主 催：日本科学未来館
協 力：ヤマハ株式会社



「ひらめきの庭」展示

・ 関連イベント：ひらめきの音楽会 ～コトリンゴ スペシャルライブ with 副田整歩～

開催日：2020年8月30日

出演者：コトリンゴ（音楽家）、副田整歩（サクソ奏者）



「ひらめきの庭」関連イベント

・ 第2弾：未来を考える映画イベント「Cinema 未来館」

これまでの行動様式や価値観の変更を求められているいま、SFが描いてきた「未来のシナリオ」を共有し、現実世界で直面する課題に私たち一人ひとりがどう向き合うかをともに考える映像祭。映画上映だけでなく、テーマを深くディスカッションするためのトークイベントを開催。映画に描かれるフィクションの世界と、研究者やクリエイターが伝える世界のリアルな姿を比較することで、ウィズコロナ時代に生きる私たちが未来のシナリオを共有する機会を参加者に提供した。

開催日：2020年10月24日、25日

主催：日本科学未来館

協力：映画メディア CINEMORE（シネモア）

・ トークセッション①『「レディ・プレイヤー1」と未来のアイデンティティ』

登壇者：宮本道人（筑波大学システム情報系研究員）

久保友香（メディア環境学者）

・ トークセッション②『「ガタカ」から考える未来の命』

登壇者：八代嘉美（神奈川県立保健福祉大学 教授）

佐藤大（脚本家）



「Cinema未来館」1



「Cinema未来館」2

・ 第3弾：リアル脱出ゲーム×日本科学未来館『人類滅亡からの脱出』

「相次ぐ自然災害や感染症への対策」をテーマに、科学的な知見とエンターテインメントの要素を掛け合わせたイベント。体験型謎解きイベント「リアル脱出ゲーム」を企画運営する株式会社SCRAPと協業し、新しい科学コミュニケーション手法の開発に挑戦した。シナリオを設定するに当たっては、防災や感染症の専門家の監修を受けた。謎解きを通じて繰り返し経験する「情報収集、分析、思考、行動」のステップは、まさに科学的な課題解決の手段そのもの。現在の新型コロナ感染症対策でも大切な「自分自身で考え抜く力」を身に着ける機会を参加者に提供した。

会期：2020年12月11日～2021年2月7日 ※土日祝日のみ開催（一部期間を除く）

主催：株式会社SCRAP

共催：日本科学未来館

協力：Google

監修：坂本史衣（学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院 QI センター感染管理室）

永田宏和（NPO法人プラス・アーツ）



「人類滅亡からの脱出」1



「人類滅亡からの脱出」2



「震災と未来」展1



「震災と未来」展2

▶ 特別企画「震災と未来」展－東日本大震災10年－

東日本大震災発災10年という節目に、震災の記憶に再び向き合い、次世代へつなげる教訓を人々が考える場をつくり、津波の脅威やその爪痕、復興への道筋、そして人々の思い等を伝えるとともに、防災・減災に関するノウハウ等を、NHKの膨大な取材資産を活用し展示した。また、未来館のこれまでの震災にまつわる継続した科学コミュニケーションの知見・蓄積から福島第一原発事故の放射能汚染の実態および住民の避難問題等を展示。原子力発電所というテクノロジーに伴うリスクを客観視するためのデータを提示した。

会期：2021年3月6日～28日

主催：NHK、日本科学未来館

協力：「失われた街」模型復元プロジェクト実行委員会、神戸大学減災デザインセンター（CResD）、一般社団法人ふるさとの記憶ラボ、宮城大学事業構想学群中田千彦研究室・友淵貴之研究室

・ 関連イベント：NHK ハートフォーラム（オンライン）

「ひとりも取り残さないために～みんなで助かるインクルーシブ防災～」

開催日：2021年3月6日

■外部連携イベント

▶ウィズコロナ特別企画 NHK×科学館「すごい宿題～きみだけのひみつ～」

コロナ禍でさまざまな制限を受ける子どもたちに、各界の著名人たちが正解のない不思議な問いを出すことで創造力をかき立てる番組、NHK「すごい宿題」と協力。NHK、未来館、全国科学館連携協議会加盟館が連携し、絵本作家のヨシタケシンスケ氏からの「自分だけの絵を描いて、誰にも見せずに捨てる」という宿題の体験コーナーを未来館内、および全国の科学館で展開し、参加者が自らの創造の機会を通じて自分らしさを育む姿勢の涵養を図った。

会 期：2020年12月19日～2021年3月31日

主 催：NHK

協 力：日本科学未来館、全国科学館連携協議会

全国実施館：旭川市科学館、厚岸町海事記念館、久慈琥珀博物館、スリーエム仙台市科学館、つくばエキスポセンター、はまぎん こども宇宙科学館、向井千秋記念子ども科学館、長野市少年科学センター、新潟県立自然科学館、伊丹市立こども文化科学館、富田林市すばるホール、高知みらい科学館、さぬきこどもの国、情報通信交流館 e- とびあ・かがわ、防府市青少年科学館、ワンダーミュージアム（沖縄こどもの国）



「すごい宿題～きみだけのひみつ～」

1. 科学をつたえる ②対話活動

社会的に必要とされているテーマや話題となるトピックについて、時宜をとらえた情報発信を行った。また、重点的に扱う注目テーマを設定し、科学と社会に関わる内容を掘り下げた。

■先端科学技術に関する時宜をとらえた活動

▶新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、国立国際医療研究センター国際感染症センターと連携し、新型コロナウイルスに関連した科学的なデータに基づく情報を発信。

・ニコニコ生放送「わかんないよね新型コロナ」

国立国際医療研究センター国際感染症センターと日本科学未来館のコラボ企画。世界的に感染が広がる新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を、ニコニコ生放送を通して実施。

実施期間：2020年4月1日～2021年3月20日（計60回実施）

・科学コミュニケーター・トーク

実施期間：2020年6月3日～（計308回実施）

・科学コミュニケーターブログ

計28本執筆



ニコニコ生放送
「わかんないよね新型コロナ」

▶中秋の名月

全国の地域科学館と連携し、「お月見と食」を入りに、近い将来、人々が日常的に月を利用する未来像について知り、科学技術による未来の食の可能性について考えるオンラインイベントを実施。アンケートパネルも制作。

・「2050年、みらいのお月見！ちきゅうをながめながら、何食べる？」

登壇者：田中宏隆（株式会社シグマクスディレクター／一般社団法人SPACE FOODSPHERE 理事）

菊池優太（JAXA J-SPARC プロデューサー／一般社団法人SPACE FOODSPHERE 理事）

鈴木啓子（はまぎん ども宇宙科学館）

協力科学館：福井県児童科学館 エンゼルランドふくい、旭川市科学館サイバル

はまぎん ども宇宙科学館、福岡市科学館

開催日：2020年9月27日



中秋の名月オンラインイベント

▶ノーベル賞関連

過去の受賞研究が今の先端研究や社会にどのようにつながっているのか、「科学の系譜」を伝える活動に注力し、人類の幸福に貢献するというノーベル賞の本来の意味を発信。

・ニコニコ生放送「科学コミュニケーターと発表の瞬間を迎えよう！ノーベル○○賞」

過去受賞テーマの解説、近年の傾向等を伝えながら、視聴者と一緒に生理学医学賞、物理学賞、化学賞発表を迎えた。

・科学コミュニケーターブログ 計15本執筆

・科学コミュニケーター・トーク

・パネル・卓上ポップ制作

受賞内容に関するブログを紹介するパネルやポップを制作し、常設展内へ展示した。



ノーベル賞関連科学コミュニケーター
トークイベント(オンライン)

▶みどりの学術賞

内閣府「みどりの学術賞」と連携し、第14回みどりの学術賞受賞者を登壇者に迎えたオンラインイベントを実施。福田氏のイベントでは通常の登壇者とファシリテーターが参加する形式に加えて、2名の子供が音声で質問可能なパネリストとして参加する新しい形式を企画・実施。中瀬氏のイベントでは、未来館はオンライン配信のみ、人と自然の博物館はともに研究を進めた方々が会場に出席するオンラインとオンサイトの複合形式を企画・開発した。

・「植物に問いかけよう！いったいどうなっている？変幻自在な体のしくみ」

登壇者：福田裕穂（東京大学理事・副学長、名誉教授）

開催日：2020年10月18日

主催：日本科学未来館、内閣府（みどりの学術賞及び式典担当室）

・「みどりでつくる、人とまち」

登壇者：中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館館長、兵庫県立淡路景観園芸学校学長、兵庫県立大学名誉教授）

開催日：2020年11月7日

主催：日本科学未来館、兵庫県立人と自然の博物館、内閣府（みどりの学術賞及び式典担当室）



令和2年(第14回) みどりの学術賞受賞記念イベント「みどりでつくる、人とまち」の様子

▶障害者週間

12月3日～9日までの「障害者週間」に合わせ、私たちにある“ちがい”や“障害”に触れ、楽しみ、考えるイベント「ちがうっておもしろい！～未来館の障害者週間2020」を開催した。知っていることや考えた結果をパネル上に付箋で貼り、意見を発信する構成にすることで、一人ひとりが気づきを得て考える場を創出した。

・「ちがい」を知る科学コミュニケーター・トーク

「障害」について科学コミュニケーターが科学の視点を交えて紹介するトークを期間中、毎日開催（1日2回）。

・展示コーナーの設置

① “ちがい” に注目するテクノロジー

研究エリアの「xDiversity プロジェクト」、「身体性メディアプロジェクト」と連携し、音を振動に変換するデバイス「Ontenna」やハプティック（触覚）を活用した特別支援学校等での取組を紹介。

② “ちがい” をもっと知る

からだや認知・発達のちがいについて知らなかった世界に触れられる6冊の書籍を科学コミュニケーターが厳選し、紹介（書籍はミュージアムショップにて販売）。



「ちがうっておもしろい！～未来館の障害者週間2020」

▶化学の日

「化学の日」関連イベントとして、ラボツアーやトークセッションをオンラインで展開。研究エリア入居プロジェクトと連携し、さまざまな「化学」を伝えることで、研究の多様性を紹介。

・「おうちでラボツアー！？」

研究エリアの「光電変換プロジェクト」「二次元物質プロジェクト」「ミトコンドリア生合成プロジェクト」と連携し、ラボツアーをオンラインで発信。

登壇者：板橋勇輝（名古屋大学大学院工学研究科 研究員）

佐藤正春（ORLIB 株式会社 社長）

竹田弘法（京都産業大学 学振特別研究員）

開催日：2020年10月24日

・トークセッション「研究者に聞く、そんなに化学は面白いの？」

登壇者：遠藤斗志也（京都産業大学生命科学部 教授）

西原寛（東京理科大学研究推進機構総合研究院 教授 / 東京大学 名誉教授）

松尾豊（名古屋大学未来社会創造機構 教授）

開催日：2020年10月25日

・トークセッション「やわらか材料の可能性をさぐれ！」

登壇者：古川英光（山形大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻 教授）

本多達也（富士通株式会社）

開催日：2020年10月25日

▶小惑星探査機はやぶさ2 カプセル帰還イベント

小惑星探査機はやぶさ2のカプセル帰還に合わせてトークイベント等を実施。

・トークセッション「小惑星の“かけら”が届けるメッセージ～はやぶさ2から太陽系誕生の謎に挑む」（オンライン）

開催日：2020年12月26日

登壇者：渡邊誠一郎（名古屋大学環境学研究科）

中澤暁（宇宙航空研究開発機構）

・科学コミュニケーター・トーク「小惑星探査機はやぶさ2～リュウグウ調査中」

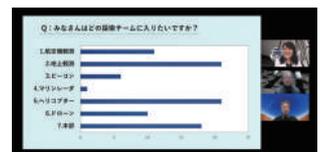
実施期間：2020年11月21日～12月27日（計68回実施）

・模型展示「はやぶさ2の実物大模型から、ミッション成功の秘密を探れ」

展示期間：2020年12月11日～12月27日

・模型展示ツアー「おうちでも盛り上がる！はやぶさ2カプセル帰還」（オンライン）

公開：2020年12月24日～



はやぶさ2 トークセッション



はやぶさ2 模型展示ツアー

■先端科学技術に関する定常的な対話活動

▶科学コミュニケーター・トーク

「わかんないよね新型コロナ どうなる？コロナのワクチン」など、先端科学の魅力や私たちの暮らしとのかかわりを、科学コミュニケーターがそれぞれの持ち味を活かした話題で提供。

■Miraikan フォーカス

昨年度より継続し、「人工知能とこれからの社会」を注目すべきテーマとして取り上げ、「AI マップ」の制作・公開やオンラインでのトークセッションを展開。

・共創プロジェクト「みんなで作る AI マップ」

常設展示オピニオン・バンクでのアンケートから、市民共創型の「AI マップ」を制作。2020年度人工知能学会全国大会（第34回）にて学会発表、一般公開。

・トークセッション「AIに評価される時代がやってきた—そのとき、あなたは—どうする？」

登壇者：本橋洋介（日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部シニアデータアナリスト）
山本龍彦（慶應義塾大学法科大学院 教授）
江間有沙（東京大学未来ビジョン研究センター 特任講師）

開催日：2020年7月10日

・トークセッション「AIを使って、亡くなった大切な人に会いたいですか」

登壇者：中島岳志（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 教授）
松原仁（東京大学次世代知能科学研究センター 教授）
江間有沙（東京大学未来ビジョン研究センター 特任講師）

開催日：2020年8月23日

1. 科学をつたえる ③情報発信

リスクコミュニケーションや科学的知見に基づく未来館の取組を、考え方や背景を含めてプレスリリースやWEBサイト・SNS等で発信した。

■来館者にとどまらない情報発信の推進

▶新型コロナウイルス感染症に関する情報発信の強化

- ・ スローガン「risk ≠ 0」についての考え方やガイドライン等、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対する未来館としての取組情報を積極的に発信。
- ・ WEBサイトに新型コロナウイルスに関する特別ページを作成し、常時トップページにピックアップとしてわかりやすく掲載した。同ページは厚生労働省の新型コロナウイルス情報サイト（「啓発資料・リーフレット・動画」）にリンクが掲載された。
- ・ ニコニコ生放送「わかんないよね新型コロナ」をはじめとする新型コロナ感染症に関する科学コミュニケーションの活躍が全国紙に掲載された（読売新聞 2020年7月12日）。
- ・ ノンフィクション作家川端裕人氏と科学コミュニケーション専門主任との対談形式で新型コロナ感染症に関する科学コミュニケーションのあり方に関する対談記事が「中央公論」2021年3月号に掲載された。川端氏からは未来館をはじめとする科学コミュニケーションの活躍に対する期待が語られた。

▶時宜をとらえた情報発信

- ・ イグノーベル賞/ノーベル賞関連イベントの情報を発信。
イグノーベル賞は発表の瞬間（日本時間早朝）に合わせて配信される「ニコニコ生放送」への協力やSNS発信、ブログ掲載等により盛り上げ機運をつくり、テレビやラジオ、全国紙新聞等の16件の掲載につなげた。

▶オンラインメディア、外部メディア等との連携

- ・ YouTube「Miraikan Channel」でのオンラインコンテンツ拡充。
新規番組数は75本（前年比5.6倍）。

▶公式WEBサイトの発信力強化

- ・ 新WEBサイトを6月23日に公開。
スマホ・タブレットユーザーに対応するレスポンシブデザインを導入したほか、展示情報等の拡充に向けたシステムを実装した。



ニコニコ生放送の様子

1. 科学をつたえる ④普及展開

『自らが思考し立案・実施するための再開館に向けた COVID-19 対策ガイドライン』や展示物・手法等を国内外の科学館や教育・研究施設等に普及展開。オンラインでのトークイベントやワークショップを活用し、コロナ禍における未来館コンテンツの普及展開を推進した。

■国内外の科学館等への普及・展開

▶全国科学館連携協議会（連携協）等への普及・展開

今年度も全国科学館連携協議会等への活動の普及・展開を実施。新型コロナウイルスに関しては、理解を深めるための展示物データの提供だけでなく、各館の活動を支援するため、再開館ガイドラインやマニュアルを積極的に公開した。また、科学館等の研修会の機会に、上記ガイドラインや館内の感染対策について普及・展開を行った。

- ・再開館ガイドラインの全国科学館連携協議会加盟館への送付
- ・展示物のデータ提供
 - 「新しい感染症との向き合い方『わかんないよね 新型コロナ』」、「2014～2019年ノーベル賞」等
- ・にかほミュージアム連携協議会 合同研修会でのオンライン登壇
 - テーマ：「博物館施設の新型コロナウイルス感染予防対策を思考する」
 - 開催日：2020年9月7日
- ・全国科学博物館協議会 研究発表大会でのニコニコ生放送「わかんないよね新型コロナ」やトークセッション「研究エリア公開ミーティング」に関する発表
 - テーマ：「博物館の社会的役割を考える～多様性をつなぐコミュニケーションの新たな展開」
 - 開催日：2021年2月26日
- ・他の科学館から未来館の感染拡大防止の取組について問い合わせや相談を受け、情報共有。
- ・未来館での感染拡大防止対策の取組について、全国科学館連携協議会国内研修での発表、意見交換。
- ・感染症対策の注意喚起を行う「新型コロナウイルスのキモチ」スイングポップを全加盟館に配布。

▶大型映像配給（アカデミック上映含む）

- ・9次元からきた男 Guangxi Science and technology Museum
 - 配給期間：2018年2月20日～2021年2月19日
- ・9次元からきた男 Planetarium Hamburg
 - 配給期間：2019年10月1日～2024年3月31日
- ・9次元からきた男 熊本博物館
 - 配給期間：2020年12月8日～2021年3月7日

▶ジオ・ツール コンテンツ貸出

- ・ジオ・スコープ コンテンツ 福井県児童科学館 エンゼルランドふくい
 - 貸出期間：2019年4月1日～2021年3月31日
- ・ジオ・スコープ一式 Centro de Ciencias de Sinaloa (Materia)
 - 貸出期間：2020年1月28日～2022年3月31日
- ・ジオ・スコープ一式（ポータブルPC2台）山梨県立科学館
 - 貸出期間：2020年6月15日～2021年3月31日

▶企画展巡回

- ・「マンモス展～その『生命』は蘇るのか～」大阪南港 ATC Gallery（大阪府）
 - 会期：2020年7月31日～9月22日
- ・「名探偵コナン 科学捜査展～真実への推理（アブダクション）～」国立科学工芸博物館（台湾高雄市）
 - 会期：2020年6月16日～9月13日

■SDGsの達成に向けた東京プロトコールに基づく活動成果の普及・展開/プログラムのオープン化の推進等

▶ 遠隔授業・ワークショップ

- ・ 小・中・高等学校の教育機関等に向け、Web会議システムを用いた学校団体向けプログラムを実施。

実施プログラム（一部抜粋）：

- ・ 海のSDGs「もう選べない？地球 Sold Out!」
- ・ SDGsワークショップ「気候変動から世界を守れ！」等 計38回実施
- ・ 環境DNA学会と連携し、シチズンサイエンスの取組として遠隔地でも参加できるワークショップを実施。

- ・ 「日本の海にはどんな魚がいる？ 環境DNAで調べる魚類の多様性」

開催日：2020年12月20日

主催：環境DNA学会

共催：日本科学未来館、南三陸町自然環境活用センター、福岡市保健環境学習室まもる一む福岡

協力：海の学びミュージアムサポート（日本財団・船の科学館）



環境DNAイベント

2. つながりをつくる ①対話・協働の場の提供

研究エリアに入居する研究者等と協働し、研究者が考える課題や未来像を参加者に伝え、ともに考えることで、未来社会に貢献する活動を推進した。

■未来社会と先端科学技術とのかかわり・あり方について考えるプログラム

研究エリア入居プロジェクトと協働し、オンラインでのトークセッションを中心に活動を展開した。特に今年は、異なる機関・プロジェクトの研究者が、さまざまな視点から視聴者の疑問や質問に答える形式に挑戦した。研究者にとっては、視聴者からのコメントや異分野の研究者とのディスカッションによって新たな気づきや共同研究への足掛かりになるものとなった。この他にも研究エリアの研究者等と協働し、クラブ Miraikan 会員向けイベントや実証実験等も行った。

▶研究エリア入居プロジェクトによるトークセッション

<xDiversity プロジェクト>

- ・「いま研究者と考える、『ちがい』を乗り越えるテクノロジー」
開催日：2020年5月23日
- ・「“音を聞くこと”のちがいを乗り越えるテクノロジー」
開催日：2020年7月23日
- ・「研究者と考える、いろんな“つくる”の可能性」
開催日：2020年8月30日



「いま研究者と考える、『ちがい』を乗り越えるテクノロジー」

<研究エリア公開ミーティング>

視聴者をラボメンバーとして迎え、2名の研究者とともに「ちょっと気になる」テーマについて考えるオンライントークセッションを実施。ミーティングの内容は「議事録」として科学コミュニケーターブログで公開した。

- ・vol.1「どうしたらオンラインでの体験にもっと満足できるだろう？」
開催日：2020年6月12日
- ・vol.2「コミュニケーションに“顔”は本当に必要だろうか？」
開催日：2020年8月7日
- ・vol.3「“触りたい気持ち”をテクノロジーで満たすことはできるか？」
開催日：2020年9月19日
- ・vol.4「私たちの“空気の読み方”は解明できるか？」
開催日：2020年10月30日

<研究者に素朴な疑問をぶつけてみた>

素朴な疑問について3名の研究者がそれぞれの専門分野の視点から語り合うトークセッション。研究者同士が「素朴な疑問」についての意見交換を深めていく過程で、研究者の多様な視点を知る。

- ・「“べんり”って、どういうこと？」
開催日：2020年7月12日
- ・「“ころ”って、なにでできているの？」
開催日：2021年3月24日



「ころ”って、なにでできているの？」

▶研究エリア等と協働したオープンラボ、クラブ Miraikan 会員向けイベント

- ・「自律走行ロボットは人にぶつからず目的地へたどり着けるのか!？」
実施日：2020年6月12日他計14日
- ・「優しい人工知能“reco!”ータッチでキツク、キミとのキズナ」
実施期間：2020年7月1日～
- ・クラブ Miraikan 会員向け「オープンラボ試行会『ロボットと未来のくらしを体験してみよう!』」
実施日：2020年8月29、30日
- ・オープンラボ「人とくらすロボットってどんな存在?～人間とロボットの関係について考えよう」
実施日：2020年9月11～13日



「優しい人工知能“reco!”ータッチでキツク、キミとのキズナ」

■ Society5.0の実装に向けた、情報科学技術と社会の関係性について考える対話の場の創出

Society5.0の実現には、AI技術が欠かせない。一方で、AI技術を使ってどのようなことができるのか、どのような社会となるのか等、具体的な想像をすることは難しい。一人ひとりが当事者としてAI技術を利用し、望む未来の作り手となることを目指したトークセッションやワークショップを試行した。

▶ 研究エリア入居プロジェクトと連携したトークセッション ＜対話知能学プロジェクト＞

- ・「知能ロボットと暮らす未来にはどんなルールが必要ですか？」

開催日：2020年7月24日

- ・「バーチャルなキャラに『権利』は必要？」

開催日：2020年9月26日

- ・「ロボットと動物の『境界』はどこ？」

開催日：2021年1月23日

登壇者：石黒浩（大阪大学大学院 教授）

新保史生（慶應義塾大学 教授）他



「知能ロボットと暮らす未来にはどんなルールが必要ですか？」

▶ 研究エリア入居プロジェクト、外部機関と連携したワークショップ

- ・ワークショップ「Ontenna で未来館の音を感じよう」

音の大きさを光の強さと振動で伝えることができるデバイス「Ontenna」を用いて未来館の音を感じるワークショップを開催。AI技術を用いてカスタマイズできるようになったらどんな音を聞きたいか、どんな社会になるかを考えた。

開催日：2020年8月20日、21日

協力：xDiversityプロジェクト

- ・サイエンスアゴラ2020 関連イベント「温かさってなに？～人と機械の温かさを考えるオンラインワークショップ」

ロボット・AIに温かさをもたせるうえで、まず私たちがどんなものを温かいと感じるのか、オンラインアプリを実際に操作してもらいながら一緒に探り、「温かさ」について多様な参加者とオンラインで対話するワークショップを実施した。

開催日：2020年11月16日

主催：日本科学未来館 / 日本大学文理学部大澤研究室

登壇者：小椋唯衣（日本大学文理学部情報科学科 大澤研究室 3年生）

大澤正彦（日本大学文理学部情報科学科 助教）

- ・クラブ Miraikan 会員向けイベント「AIをつくってみよう！君ならどんな音を知りたい？」

自身の課題を解決するシステムを考え、機械学習によってつくることがを通し、AI技術を「自分でつくることができるツール」、「自分もつ課題を自分で解決していくことを実現するツール」としてとらえられるようになるプログラムを実施。

開催日：2020年12月12日、13日

協力：xDiversityプロジェクト



「AIをつくってみよう！君ならどんな音を知りたい？」

■ 外部機関連携イベントの開催

▶ 第23回文化庁メディア芸術祭受賞作品展

メディア芸術の文化交流の中心的なイベントとして、2019年度（第22回）からは未来館を中心としたお台場地区で開催。昨年度に引き続き、Geo-Cosmos、ドームシアターを活かした「フェスティバル・プラットフォーム賞」が設けられ、未来館で実施している球体表現の検証の場として活用。メディア芸術祭のファン層に対して、未来館の存在を印象づけることができ、また球体映像表現の可能性を伝えることができた。

会期：2020年9月19日～27日

主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会

協力：日本科学未来館 他

作品数：39点（アート部門：9、エンターテインメント部門：10、アニメーション部門：9、

マンガ部門：9、フェスティバル・プラットフォーム賞：2）



メディア芸術祭 メインビジュアル



フェスティバル・プラットフォーム賞(ジオ・コスモスカテゴリー)「球小説」

▶リアルテック・フューチャーワークショップ「台風で発電!?! ~マグナス力の歴史を塗り替える!」
人類や地球の課題に挑戦する技術(=リアルテック)の開発に尽力する研究開発型のベンチャー企業との協働で、社会実装前のリアルテックを題材に、リアルテックの社会実装への貢献や、中高生を中心とした10代の人材育成を目的としたワークショップを開催。株式会社チャレナジーが保有する、次世代の風力発電技術である「マグナス式風力発電」をテーマとした。革新的テクノロジーの基本的な理解とその重要性・進歩性を体験者が認識しただけでなく、自らが技術者となって、このような課題解決に資する取組をしていきたいという意見もあり、社会実装までの過程を自分事として捉える機会を醸成することができた。

開催日：2020年11月29日

主催：株式会社リバネス

共催：日本科学未来館

協力：株式会社チャレナジー



マグナス力で走る車の工作

▶NHKサイエンススタジアム2020 with 新しい日常

「コズミックフロント☆NEXT」、「なりきり! むーにゃん生き物学園」、「すイエんサー」、「子ども科学電話相談(ラジオ)」等NHKの人気科学番組の公開収録・公開生放送を軸とした体験型科学フェスティバルイベントを開催。

未来館においては新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しつつ規模を縮小して開催した。一方で、公開収録のオンライン観覧を実施し、地方科学館を公開収録のサテライト会場とすることによって、参加機会の拡大と来場者の分散を図った。

開催日：2020年12月5日、6日

[サテライト会場]

旭川市科学館(北海道旭川市)、港区立みなと科学館(東京都港区)、大阪科学技術館(大阪府大阪市/コロナ禍のため中止)、愛媛県総合科学博物館(愛媛県新居浜市)、情報通信交流館e-とぴあ・かがわ(香川県高松市)、高知みらい科学館(高知県高知市)、福岡市科学館(福岡県福岡市)

主催：NHK

協力：日本科学未来館、全国科学館連携協議会



公開収録「コズミックフロント☆NEXT「宇宙アニメ」は実現する!？」



サテライト会場(福岡市科学館)

▶オンラインライブ「NEXT VISION JAPAN 2021 XR LIVE」

コロナ禍における文化芸術活動の持続可能な事業環境構築、新しい取組を支援する文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」の一環として、最先端テクノロジーを活用した舞台芸術のDX、新しい鑑賞モデルの開発を目指したオンラインライブを未来館で開催。「TRANSFORM(変容)」をテーマに、1. 空間、2. 出演者、3. コミュニケーションの3つの視点から、新しいオンラインライブ体験の創出に挑戦した。未来館のシンボル展示、世界初の有機ELパネルを使った地球ディスプレイ「ジオ・コスモス」の前にメインステージを特設し、XR映像と融合させたり、オンラインを通じて視聴者と出演者との双方向演出をはかるなど、ニューノーマル時代の未来型エンターテインメントを実現した。

開催日：2021年3月16日

主催：文化庁、株式会社IMAGICA GROUP

協力：日本科学未来館、公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団、株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ、株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ、DAF株式会社、株式会社DH、日本電信電話株式会社、ぴあ株式会社、株式会社WTOKYO、東京ガールズコレクション実行委員会



「NEXT VISION JAPAN 2021 XR LIVE」

2. つながりをつくる ②共創の推進

多様なステークホルダーと連携し、新型コロナウイルスに関連した市民の声の収集や、研究開発推進に資する未来館の展示を活用した実証実験等、共創活動を推進した。

■多様なステークホルダーが参画した政策形成・知識創造・社会実装・研究開発推進に資する活動の推進

▶実証実験（オープンラボ）

研究エリア入居プロジェクトや公募採択した外部研究プロジェクトの実証実験を実施。メジャージャーナルへの論文掲載や実施機関からの成果のプレスリリース等につながった。

- ・「自律走行ロボットは人にぶつからず目的地へたどり着けるのか!？」

実施研究者：佐々木洋子（産業技術総合研究所人工知能研究センター 主任研究員）

坂東宜昭（産業技術総合研究所人工知能研究センター 研究員）

論文採択：IROS2020, Masuyama, Yoshiki, et al. (2020)

- ・「Ontenna を使って未来館の“音”を感じよう！」

実施研究者：本多達也（富士通株式会社）

- ・「優しい人工知能 "reco!" ータッチでキヅク、キミとのキズナ」

実施研究者：高岡昂太（産業技術総合研究所人工知能研究センター 確率モデリングチーム 研究員）

- ・「赤ちゃんや子どもはコトバやカタチをどう覚えるの？ ～効果的な学習環境を探る～」

実施研究者：辻晶（東京大学国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構 助教）

- ・「顔と声、気持ちが伝わるのはどっち？」

実施研究者：山本寿子（東京女子大学現代教養学部 / 日本学術振興会特別研究員 PD）



「自律走行ロボットは人にぶつからず目的地へたどり着けるのか!？」



「顔と声、気持ちが伝わるのはどっち？」

■科学技術による未来社会への貢献を示唆するプログラム開発の推進

▶入居プロジェクトとの協働による新技術を活かした支援のためのワークショップ

身体性メディアプロジェクト「Cyber Living Lab」が開発した振動をつくり共有できるキット「テクタイル」と、振動を体で感じられる「キンダーぶるぶるクッション」を用いて、「触覚」を知るワークショップを開発・実施。特別支援学校の生徒は、視覚や聴覚と比べ、触覚を意識する機会が少ない。そのため、触覚を知ることで日常の感覚を広げていくきっかけを探った。

実施日：2020年11月4日、10日、17日

■フロア活動で得られた来館者の声を活かすプログラムの企画・開発

▶オピニオン・バンク

科学や社会にまつわるテーマについて、展示およびウェブサイトを通じて、一般の方々からの意見を収集。集めた意見を科学や社会に関わる調査・研究や、イベント等を行う上での参考情報として活用。そのほか、展示フロアにおいて付箋等を活用し、より広く意見収集するとともに、対話活動を行った。

2020年度テーマ：

- ・「新型コロナウイルスをめぐるウソ・ほんと・ウワサを教えて！」
- ・「リスクはゼロではない、だから（新型コロナウイルスとリスク）」
- ・「IT技術、使っている？」
- ・「お子様に触れたときにどんな気持ちになりますか？」
- ・「ミクロな探査船で体の中をパトロール！～未来の医療技術に関する意識調査」
- ・「手、洗ってる？～手洗い習慣に関する調査」

▶友の会

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、「ライトdeナイト! 貸切ツアー」や「UNI-CUB 常設展ツアー」といった常設展示を活用したプログラムを実施。また、実証実験（オープンラボ）や外部機関と連携したイベントについては、新しい生活様式を踏まえたオンライン実施を試みながら、社会と科学技術との関わりを考える機会を提供した。



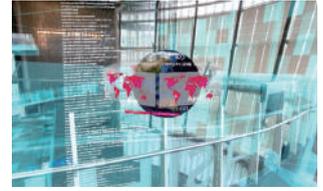
クラブMiraikanイベント「UNI-CUBツアー」

▶企業連携

将来の展示インフラとして必要になると思われる新技術の、未来館環境における実用性を検証するため、その技術とリソースをもつ KDDI 株式会社、株式会社 KDDI 総合研究所と共同で技術検証イベントを開催。5G、位置測位技術（VPS）および AR 技術を用いて展示や空間に映像を重ねる情報の多層化について試行し、評価した。将来的には個々の体験者に応じたコンテンツの提供や、仮想空間上での体験の実現を目指す。

開催日：2021年3月11日～14日

主催：日本科学未来館、KDDI 株式会社、株式会社 KDDI 総合研究所



技術検証イベント
「HYPER LANDSCAPE」

■科学館関係者・教育関係者、研究者との連携

▶科学館関係者・教育関係者との連携

自律的に各学校や教育関係者が科学コミュニケーション活動を実施できるように、2014年度よりプログラムの普及展開、教員等への研究を実施している。2020年度適用の学習指導要領改訂や2022度からの高等学校における「理数探求」及び「英数探求基礎」の科目化に伴い、需要が高まることを想定し、コンテンツのオープン化を推進した。

・SDGs ワークショップ研修会～教員のための博物館の日

「教員のための博物館の日」の一環として、未来館開発の学習教材 SDGs ワークショップ「気候変動から世界を守れ！」を活用するためのオンライン研修会を実施。

開催日：2020年11月3日

▶若手研究者との連携

来館者に研究の意義を伝えるだけでなく、Ongoing な研究の過程を見せながら、市民の声を拾い、研究に反映していくためのトークイベントを実施。また、大学院生等の若手研究者に研究内容を来館者に話す機会を提供することで、科学コミュニケーションに対する意識を高めてもらうことを目指した。

・トークセッション「自律走行ロボットはどんなところで活躍できるのか!？」

開催日：2020年12月12日

登壇者：新島駿（東京理科大学大学院理工学研究科博士課程）

・トークセッション「ロボットは周囲の音環境を理解できるのか!？」

開催日：2020年12月13日

登壇者：升山義紀（早稲田大学基盤理工学研究科修士課程）

・トークセッション「みんなでつくる、優しい人工知能」

開催日：2020年12月19日

登壇者：高岡昂太（産業技術総合研究所研究員）



トークセッション「ロボットは周囲の音環境を理解できるのか!？」

2. つながりをつくる ③国際展開と発信

世界の科学館ネットワーク等を活用し、未来館のSDGs達成に向けた活動やコロナ対応について、発表や寄稿によるタイムリーな情報発信と、継続的な海外動向リサーチを行うとともに、来賓を通して科学コミュニケーターの有用性を発信した。

■世界の科学館ネットワークとSDGs達成に向けた対話・協働の場の創出、シチズンサイエンスに向けた取組の推進

▶ASPAC（アジア太平洋地域科学館協会）

- ・ Webinar に登壇
 - ① 「Science Communication in Viral Times」
開催日：2020年7月9日
登壇者：池辺靖（科学コミュニケーション専門主任）
 - ② 「Enhancing Social Conversations around Ageing」
開催日：2020年10月1日
登壇者：鎌田芽生（科学コミュニケーター）
- ・ Share-2-Learn Session に登壇
「How Can Science Centers Contribute to a Better World?」
開催日：2020年12月9日
登壇者：櫻井あゆ子（科学コミュニケーター）

▶Ecsite（ヨーロッパ科学館ネットワーク）

SDGs ワークショップ「Steer towards the future」の紹介を月刊ニュースレター SPOKES 5月号（#63）に寄稿

▶仏独日シンポジウム「人間中心のAI」

主催：在日フランス大使館、ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京
開催日：2020年11月16日～20日
発表者：渡邊吉康（科学コミュニケーター）
櫻井あゆ子（科学コミュニケーター）

▶オンライン国際会議への参加：

- ・ Euro Science Open Forum：2020年9月2～6日
- ・ Cross Network Science Engagement Executive Forums：2020年9月29日
- ・ Future Oriented Museum Synergies：2020年4月23日、7月30日、9月30日、10月29～30日、11月26日
- ・ UNESCO High-Level Futures Literacy Summit：2020年12月10日～11日

■ウィズ/ポストコロナにおける科学館としての新たな役割と展開に係る国際的な情報共有と対話・協働の場の創出

▶「新しい感染症との向き合い方 わかんないよね新型コロナ」パネルの海外展開

- ・ ASPAC の WEB サイトおよび SNS
- ・ ASTC（科学技術センター協会）の WEB サイトおよびニュースレター
- ・ Ecsite SPOKES 10月号掲載

▶Virtual ASTC（科学技術センター協会）2020

開催日：2020年10月20日
発表タイトル：Action for Re-open: Think a Guideline and Communication
発表者：宮原裕美（展示企画開発課 調査・企画担当マネージャー）
島田卓也（科学コミュニケーション専門主任）

■来賓を通じた活動の発信

▶国内

- ・ 吉野彰（2019年ノーベル化学賞受賞者 / 旭化成株式会社名誉フェロー）[2020年8月25日]
- ・ 井上信治（内閣府特命担当大臣（科学技術政策））[2020年10月22日]
- ・ 高橋ひなこ（文部科学副大臣）[2020年11月5日 / 2021年3月5日]
- ・ 萩生田光一（文部科学大臣）[2021年3月5日]



吉野彰(ノーベル化学賞受賞者)

▶海外

- ・ ミゲル・アンヘル・ラミレス・ラモス閣下、ロサ・マルガリータ・アルバレス大使夫人（駐日キューバ共和国特命全権大使）[2020年7月25日]



井上信治(内閣府特命担当大臣)



萩生田光一(文部科学大臣)
高橋ひなこ(文部科学副大臣)



ミゲル・アンヘル・ラミレス・ラモス
閣下、ロサ・マルガリータ・アルバ
レス大使夫人
(駐日キューバ共和国特命全権大使)

(敬称略)

3. 人材を育てる

科学コミュニケーション活動推進のための、先端科学技術と社会をつなぐ担い手となる人材を育成し、輩出。

■科学コミュニケーターの育成と輩出

日本科学未来館の科学コミュニケーターは、最長5年の任期制職員として採用され、展示フロアでの対話・解説をはじめ、トークセッション等のプログラムや展示の企画開発など、さまざまな活動を行っている。これらをOJTとして実践する中で、科学コミュニケーターとしての資質・能力を養成している。

2020年度の科学コミュニケーター輩出先

輩出先の業種	研究機関・ 大学等	企業・ 公的機関等	科学館・ 博物館等	その他	計
人数	4人	2人	1人	2人	9人

▶長期派遣教員の受け入れ

現職教員が科学コミュニケーターとして未来館の活動に携わることで、科学コミュニケーション活動のノウハウやスキルを学校教育現場へ還元することを目的として実施している。2020年度は1人の長期派遣教員を受け入れ、常設展での対話・解説、新規実演開発、学校団体向けプログラムの企画実施、記事執筆等の業務を通じた研修を行った。

期 間：2020年4月1日～2021年3月31日

派遣元：埼玉県立松山女子高等学校

■日本科学未来館の科学コミュニケーター（2020年度在籍）



綾塚 達郎

大学では牛と稲を育てる研究をしていました（修士卒）。民間の教育会で働いたのち未来館へ。ファシリテーション、執筆、広聴活動との展示前対話といった科学コミュニケーション活動を行っています。職業に関するテーマをよく扱っています。また、科学コミュニケーションの手法として演劇や五感を刺激するワークショップなど新しい伝え方へのチャレンジもしています。



飯田 綱規

図鑑ばかり見ていた幼い頃から、生き物の形・行動を決めるメカニズムに着かれています。「私とは何か」を色々な角度から考えながら、幸せに暮らすためには科学技術や自然、社会とどう関わっていけばいいのか、お話ししませんか。専門は誤診バンク員の機能解析。薬剤師を経て未来館へ。



岩澤 大地

研究では日本中の動物を追いかけました。そのかわり、サイエンスショーをやったり、アナログゲームを作ったり、とりとめなくやりたいことをやってきました。「好きなことで、生きていく」のはとてもいいことです。「好きなことを、増やしていく」そんな生き方も素敵だと思うのです。みなさんが新しく好きなことを見つけられる、未来館をそんな場所にしたいたいと思う今日この頃。



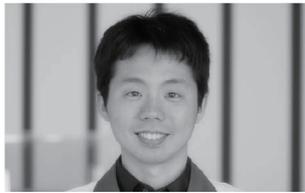
上田 羊介

今も昔も動物好き。最近では最新のガジェット体験も好きです。大学では農村に出没する二ホンザルと人の関係について研究しておりました。卒業後はシンクタンク企業での業務経験を、科学技術の社会実装に関する対話や、科学技術でさまざまな現象を知る楽しさの共有に取り組みる人になりたいという思いから未来館へ。現象が地図化されたものをみてワクワクする人間です。



臼田 麻純

子どもの頃は可愛いお花が好きで、高校生の頃はお花屋さんに行くのが趣味な変わった人でした。大学では森林生態学を学び、植物の見た目だけじゃなく、植物の生理や生態にも興味を持つようになり、人間と違って、植物は芽吹いた場所まで一生を終える。それで、すごい事だと思いませんか!? 皆さんが知らない植物の不思議を伝えたいと思い2017年より未来館へ。



漆畑 文哉

「どうしたら科学（理科）をもっと深く理解し、未来をもっとよくなるだろうか?」というテーマをいつも考えています。大学院修了後、その問題を小・中・高等学校の理科教員として実践してきました。科学技術と社会のあり方について多くの方と対話を通して深く理解し、より良い未来を一緒に考えていきたいと思い、2017年より未来館へ。



遠藤 幸子

ある渡り鳥との出会いがきっかけで、これまで鳥の生態を研究してきました。その日々のなかで出会ったモズという小鳥と研究者たちが、世界にはたくさんの不思議があるということを知ることができました。未来館で、みなさまが不思議に思うことをぜひ教えてください。みなさまの不思議と科学をつなぐことができれば嬉しそうです。



太田 努

夢の中でも原子や分子たちの気持ちを考えるような学生生活を送っていました。知らない社会を経験してみたいと思い、特許業務に関わったところ、徐々に科学と社会のつながりや興味をもつようになりました。また、知的財産の法律を勉強していくうちに、いろんな視野を持つと面白いなと思うようになりました。皆さんの得意なことや好きなことも聞かせてください。



夏 イゼン

大学院ではツーリズム、メディア、ジェンダーの分野をまたいで研究を行いました。その経験から、私たちが生きていく時代が、科学技術の発展に影響を受けてきたのちに気づきました。科学が社会、そして個人のライフスタイルとどのように結びついているのか、とても関心をもっています。未来館で、日常生活と科学技術が出会ったときに生まれたあなたのストーリーに、耳を傾けたいです!



片岡 万柚子

大学で初めて土を基盤とした生態系のすごさを知り、どっぷり土壌動物の世界にハマりました。研究室では、土の中の生き物たちがどんな関わり合いをもっているのかを調べていました。「こんな身近に全く知らない世界が広がっていたのか!」という当時の感動を、多くのみなさんにも伝えたいと思い、未来館へ。みなさんと新発見のワクワクを共有したいと思っています!



片平 圭貴

大学で出会った「鉄」。100トンの鉄を成分0.1%以下の精度でコントロールする、繊細かつダイナミックな現代の鉄鋼技術を発見しました。こんなに面白いこと、みんなにぜひ紹介したい!でも、実はみんなも面白いこと、たくさん持っているんじゃない? そんな話をいろんな人としたくて未来館へ。



加藤木 ひとみ

「どうして?」と考えることが大好きです。小学生のとき、どうして植物は雨が降っても風が吹いてもその場所から動かないで生きていけるのか?と疑問に思いました。この疑問をきっかけに、大学でお花（ネジバナ）と菌（菌根菌）の共生関係を研究しました。みなさんの「どうして?」を聞かせてください!



鎌田 芽生

病気を入院を繰り返した経験より、漠然と「将来は医療に関わる仕事をしたい」と思うようになる。「医学と工学を結びつける」という学問に興味をもち、理工学部へ進学。研究活動をするにつれて、「医療の現場に関わりたい」と強く思い、治療コーディネーターとして勤務。そして「科学の基礎知識を深め、もっと多くの人と関わりたい」と思い2018年10月より未来館へ。



川崎 文資

人と話すのが好きだった子どもの頃、宇宙や生き物などにも興味があって、科学のことを話しているとワクワクしていました。大学院で科学コミュニケーションに出会い、自分の好きなことがより良い未来をつくるためのアプローチの一つであることに興味をもちました。毎日の暮らしや教育のことなどと同じように、科学技術のことも自然と語り合える社会になるためにはどうすればいいかを考えながら、2019年より未来館へ。



神沢 隆男

植村直己さんに憧れて、夢は冒険家になること。そんなこともあり、高校・大学では山岳部に入部し、存分に山登りを楽しみました。特に大学時代は岩登りをしており、登るのは怖いのですが、登り切った後の達成感や爽快感がたまらなく続いていました。学生時代に登山を通じて得た「自然との対話」が今の自分につながっているような気がします。



榎田 康晴

高校生物の実験で生物学の面白さを。大学院では織毛虫（ゾウムシの仲間）の細胞核がどのように分裂するかという難問に挑戦。ポストドク（博士研究員）時代は、iPS細胞やオートファジーにかかわる研究に従事。科学者でいい方々に科学の面白さとその可能性を伝えることの重要性を痛感し、科学コミュニケーターになる。



小林 望

蚊をとりまく世界を探る先生たちの生き方やお話が面白くて、先出たちの後を追って入った。動遊は謎のエリアだ。大学院生時代。院生仲間とはじめて活動の中で、蚊や感染症についてたくさんの人と話す機会があり、科学コミュニケーションに興味をもちました。どうしたらみんなが健康に生きていけるのかを考えるために、2018年10月より未来館へ。



佐久間 紘樹

人の見聞違いに興味をもち、外見や動き方の情報をどう利用しているかを研究していました。動遊は謎のエリアですが、研究のタネです。いろんな動遊話をお待ちしています! 最近は動物の認知にも興味津々です。それぞれどのように世界を認識しているのか、いつかVRなどで体験できないかと期待しています。可愛い動物動画も研究のタネ、お待ちしております!



櫻井 あゆみ

高校時代の「国際的課題」の授業から「人間社会は価値あるものを生み出す一方で、なぜ問題はなくならないのか?」について考え始めました。海外で生活する中、文化などの背景が異なる人々が協同する難しさと、同時により良い社会にしていきたいという人々の思いの強さを実感。紆余曲折を経て帰国、科学という視点から世界を見てみようと思い、2019年4月より未来館へ。



佐野 広大

中学生までは恐竜博士を夢見て、高校生になって生物全般に興味をもち、大学で生物の基礎研究の世界へ。細胞の中で起こっているミクロなできごとを探っていましたが、人と関わる仕事かしたいと気づき、教育関係の仕事につきました。さらに科学の目線でもっと社会に貢献したいという思いで未来館へ。趣味は写真と映画鑑賞とダンスミュージックを聴くこと。科学のことも、それ以外もぜひ一緒に語り合いたいです!



清水 裕士

「地球に大変なことが起きている！」そんなイメージで、小学生の頃に環境問題に興味を持ちました。ただ、「モノづくりに携わりたい」という好奇心から、電機メーカーでシステム設計に従事。しかしやっぱり環境問題が気になる。その解決のためには自分に何ができるかと考える中、科学コミュニケーションに出会いました。「これこそ環境問題を考える上で必要だ！」と思い、2017年より未来館へ。



スワンモントリー・ビッシュヤナン

小さい頃から自然と科学に深い興味をもって、図書館に行ったりして百科事典をよく読みました。大学で理系(生物学)を選んで遺伝学(植物系)を専門分野にしました。卒業後、英学を取得して日本に留学できるようにになりました。大学院で科学コミュニケーションと出会ってとても興味をもちました。そのときから、研究界と社会の距離を縮める架け橋となるような科学コミュニケーションになるつもりで、2018年10月から未来館に来ました。



園山 由希江

幼少時代毎週のように地元の科学館に通い詰め、科学にトキメキを覚えました。大学時代、生物工学の教授がつぶやいた「僕はこんなにも不思議で面白いと思ってるけれど、この感覚をみんなとシェアするためにはどうしたら良いだろう」という問いに強い共感を覚え、その答えを探るため未来館へ。



高橋 明子

子供のころから生き物が好きで研究に没頭し、色々な場所で色々な対象相手に研究をしていました。前職では高崎県の幸富でニホンザルを追い回していましたが、社会の中で研究はどうあるべきなのかを考えるため、2016年4月より未来館で勤務しています。



高橋 尚也

子どもの頃から昆虫少年。さまざまな科学技術の不思議さに虜にされてきた学生時代。現代社会の、科学技術と環境問題の関係性を学ぶために、スウェーデンにて環境問題を学ぶ。科学技術とともにある私たちの生活と、自然環境との「循環」を伝えたいと思い未来館へ。好きな語は、金子みすゞの「かしこ」。ぜひ読んでみてください!



竹腰 麻由

星をみながら宇宙にあこがれていた幼少期。いろいろなことに興味がありすぎて将来の道が決まらなかったが、高校の先生との出会いをきっかけに理系の道を選ぶ。大学ではプラスチックの世界を追いかけられることに。大学・企業で研究をする中で、世の中に科学のわくわく感や研究者の努力が理解してもらえないことに気が付き、もやもや。科学や研究者と世の中をつなぐ人が必要はずだ!と思い、現在の道にたどりつく。



竹下 あすか

作物の品種改良をやってみたくて農学部を志しましたが、気づけば農業工学分野に進学していました。大学院時代は、農業用水中の放射性物質の動態について研究し、その中で地元農家やボランティア等、さまざまな立場の方と対話を行うことの重要性を実感。いろんな人と科学や社会のことを話そう場所をつくりたいという思いから、未来館に来ました。



伊達 雄亮

“どこでもドア”、“タイムマシン”、“タケコプター”……。ドラえもん「ひみつ道具」を作りたい!!と夢見た少年時代。その夢を叶えるべく大学院へ進学し、工学修士号を取得。その後メーカーで日用品の研究開発に従事するも、多くの方と二人三人行「ひみつ道具」があったらいいな、ということをお話し合いたい!という思いから、2017年より未来館へ。



田中 沙紀子

生徒も先生もみんな自由でキャラが濃い。そんな充実した高校生活を送り、いろんな人と出会う楽しさを知りました。その後、興味をもった理系の道に進み、大学院修了。企業で働く中で、科学の情報をなかなか知ってもらえない壁に直面。いろんな人と出会い、科学のおもしろさを共有したいと思い、2018年より未来館へ。



寺村 卓朗

小さい頃に、飛行機が飛ぶ理由を考えながら空を眺めていたところ、後に転機として後頭部を強く打つ。それがきっかけかわらないが、鏡のような小さな生き物が動いている様に興味をもつ。最終的には、目に見えない微生物の生命に興味をもつ。微生物研究に従事。趣味はアニメソングを熱唱しながら料理をやること。特技はカレライスを食べてたくさん汗をかくこと。



中島 朋

高校生生の時に宇宙飛行士が話す講演会に参加し、宇宙と宇宙飛行士に魅了される。先輩からの「女の子に物理なんて無理」という言葉をバネに物理に没頭。そして宇宙に関する研究をしたくて物理の道へ進むも、研究はなぜか放射線検出器の開発。そこで電子部品の可愛さを知る。より多くの方々とともに、科学と社会のあり方を考えたこと、高校理科教諭を経て、2018年より未来館へ。



長島 瑠子

幼少期から自分の適性は科学と信じて疑わず。iPS細胞に出会って生物学へ足を踏み入れるも、研究界と世間との関係に違和感を持ち、科学コミュニケーション論へ転向。関わってきた分野は、分子生物学、医学、宇宙、エネルギー、宇宙、と多岐にわたります。研究を進める中で、学術研究だけではなく、実際の現場での実践活動も重要だと考え、未来館へ。コアの養子がいいます。



八田 愛理奈

高校生の頃に、虫歯を治したい!という思いから幹細胞に興味をもちました。学生の頃は間葉系幹細胞を使った骨の研究で修士号(医学)を取得。科学の不思議さや可能性について追求、共有したいと思い2017年より未来館へ。



花井 智也

子どもの頃から博物館と恐竜が大好き。中学2年生のとき、将来は科学にたずさわりたいことに決心しました。恐竜の成長をテーマにした研究で博士号を取得するも、「科学コミュニケーションの力で、もっと日本の博物館や科学館を盛り上げたい!」という思いから未来館へ。休日はボクササライズとランニング@荒川河川敷で汗を流しています!



廣瀬 晶久

高校化学で、原子1つでさまざまな性質が変化する有機化合物や色が変わる無機化合物に興味をもち、その謎に迫りたく、大学、大学院と化学を専攻しました。その後、教員として学校現場で働くなかで、自分と社会との間に科学観のギャップがあることに気づかされました。そのギャップはどこから生まれるのか、どうすれば解決できるのか。自分なりの答えを見つめるべく、未来館へ。



深津 美佐紀

いろいろなことに心のアンテナが反応!ひとつに決まれない!そんな思いで、大学は文系理系の両方が学べそうな教育学部で理科を専門に学びました。大学院の研究生活では、解答のない問いに答えることの難しさを体験しました。教員経験を経て、2017年4月に未来館へ。さまざまな立場の人とトコトン語り合いたいと思っています!



福井 智一

大学で研究員としてショウジョウバエと戯れるも、野生の世界への憧れを捨てられず青年海外協力隊としてアメリカ・ケニアで野生生物保護活動に従事。帰国後はケニアで撮影した写真をもとに個展などを行う。紆余曲折の後、無節操な知識欲と経験を活かすために未来館へ。



保科 優

研究室でコンピュータと向き合うより自然の中に出たくて、フィールド調査を行う鳥や水の研究へ進みました。アウトリーチ活動を通して、自然現象を子どもたちへ見せる楽しさを経験。科学と人をつなげたい、コミュニケーションについて考えたいと思い未来館へきました。



本間 英智

子どもの頃に見た宇宙図鑑に載っていた、銀河や星のイラストに感動し、国立天文台で宇宙の研究をしていました。宇宙だけでなく他の分野の人ともっと連携して仕事をしたいと思い、科学コミュニケーションになりました。分野とらわれない科学を見つめ、いろいろな視点で物事を考えていけるようにになりたいです。



増田 到

「生き物ってすごい」という気持ちで生きていたら、いつのまにか未来館にいました。ですが、いろいろな展示を眺めていると、生き物だけじゃなく宇宙も、人間も、アートも、全部ぜんぶおもしろい。そんな「世界のおもしろさ」をみなさんと一緒に探って、つくっていただければいいなと思っています。



松島 聡子

気づいた時には、化学が好きになっていました。大学院まで学んできた化学で社会に貢献したいと考え、メーカーに就職。その一方で、科学技術の目まぐるしい発展に、希望と不安を抱くようになりました。「地球の未来について本気で考えてみたい!」と思い、2018年10月より未来館へ。



松谷 良佑

高校生の時にテレビの特集番組を見て、ヒトの身体機能を補助するサイボーグ技術に興味をもち、ヒトの運動制御に関する神経生理学の分野に進む。大学院修了後、一般企業でエンジニアとして働くも、科学への興味を捨てきれず博士課程に進学。より多くの人に基礎科学の面白さ・重要性を伝えたいと思い、2017年より未来館へ。



三澤 和樹

小学生時代、入院していた時期があり、「自分の体の中は、どんなふうになっているんだろう」と考えていました。造血幹細胞というひとつの細胞が、血管を流れるたくさんの血球細胞をつくっていることを知り、とても驚きました。科学コミュニケーターとして、そんな素朴な感動を大切にしたいと思っています。



三井 広大

幼少期から生物が大好きで、カブトムシやザリガニを捕まえて飼育していました。大学進学後は、生物が外界の情報を感知するしくみに興味を抱き、研究に没頭。そんな研究生活の中で、研究者が成果を一方的に発信するだけではなく、研究者と社会との相互コミュニケーションが重要であると感じ、2018年より未来館へ。



宮田 龍

科学も社会も好きが高じて社会物理学の研究で理学修士を取得。企業での技術職を経て未来館へ。閉塞感のない未来を目指し、これまでAI・ロボットとの共生や、well-beingなどから社会ありかた、今後の人間らしさについて企画。また、一人ひとりの心が動き、行動につながる科学コミュニケーションを模索し、コンテンツとのコラボにも取り組む。趣味はマンガとライブ観戦とおいしい居酒屋めぐり。



毛利 亮子

遺伝子がどのように生物の行動をコントロールしているかを知りたくて、線虫C. elegansやマウスの研究に没頭。子連れ留学で多様な価値観に触れ、コミュニケーションに興味を持つ。科学で人と人をつなぎたい!子供達に明るい未来を残したい!と一念発起。研究室を飛び出し未来館へ。



山川 葉

小さい頃から自然と生き物が好きで、たんぼぼの茎を裂いて水に浸してくるくるする遊びが私の最初の実験だったと思います。そして中学生の時にテレビで見た早老症の女の子の生き方に心打たれ生命科学の道へ。大学院での研究、治験コーディネーターとしての経験を通して、科学をもっと身近にしたいと思い2017年より未来館へ。



山本 朋範

物心つく前は「抱き上げるときには気が抜けなかった」とは親の談。さすがに今は不思議だからって人の目をついついたりしませんか、サンショウウオを研究したり、フィリピンの田舎に住み着いたり、相変わらず好奇心で生きています。今度は皆さんの好奇心を突くって仕事をしたいと、2016年に未来館にやってきました。



渡邊 吉康

幼少時に個性豊かな惑星の画像に魅せられことをきっかけに、惑星科学の道に。学部では地質・鉱物・地理、大学院では地球物理、天文と色々な分野に手を広げてみる。博士課程在籍中にサイエンスカフェの運営に携わり、科学コミュニケーションの面白さや大切さを認識する。複数のバックグラウンドを活かすために、そしてさまざまな立場の人を科学でつなぐ方法を探るために2016年4月より未来館へ。



池辺 靖

科学コミュニケーション専門主任
理学博士。宇宙物理の分野で、理化学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理学研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、2004年より未来館勤務。地球環境、エネルギー、原発事故、生物多様性、リスクコミュニケーションなどの分野を担当。熟議民主主義の実践をめざして市民会議に取り組み。



小澤 淳

科学コミュニケーション専門主任
科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータ・グラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などをおこなった。未来館では情報科学技術分野の展示企画を担当。



佐々木 隆

科学コミュニケーション専門主任
工学博士。専門は高分子学、分子生物学、機能性材料工学。前職では、薬液対応商材の創出やPCT対応商品開発、ならびに社内サイエンスカフェの企画をおこなった。2019年10月より未来館に入職。未来館自身がイノベーションの実験場、そして共創の中心地になるための仕組みを考えたいと思っている。



島田 卓也

科学コミュニケーション専門主任
情報科学を学んだ後、幅広いデザイン業界に入り、技術と表現を横断するさまざまな企画開発を行ってきた。未来館には2001年から在籍し、何らかしらの役割を繰り返しつつ、表現や方法、制作技術の側面から科学コミュニケーション活動に関わってきた。2019年から専門主任。



詫摩 雅子

科学コミュニケーション専門主任
理学修士。植物生態学を学んだ後、全国紙の科学技術記者、一般向けの総合科学雑誌の記者・編集者として生物学や生命科学を担当。2011年に未来館へ。新しい医療技術やバイオテクノロジーが、ときに過剰な期待や不安をもたらしてしまうことを何とかしたいと考えている。



松岡 均

科学コミュニケーション専門主任
理学博士。専門は宇宙科学。大学院修了後、国内外での研究生活を経て、2004年に未来館へ。その後、JAXA宇宙教育センターで学校教育の支援活動に従事し、2012年に再び未来館に戻り現職に就く。さまざまな経験を活かして、社会と研究者の橋渡しをしたいと思っている。



森田 由子

科学コミュニケーション専門主任
理学博士。専門は生物学（動物学）。大学と製薬会社で、基礎科学と応用科学のそれぞれの立場を経験したことが、現在のモノ・コトの考え方に大きな影響を与えた。と思っている。2012年より現職。科学コミュニケーションマインドをより多くの人が持つようになるためのくみか、考え続けている。



藪本 晶子

科学コミュニケーション専門主任
文学部卒業後、教育教材、雑誌、書籍などの編集に従事。日本科学未来館では紙やウェブなどの媒体制作のほか、展示に関する情報編集などを担当。

4. 未来館運営の基盤整備

大型集客施設として多様な来館者を迎えるための安全・安心な運営、施設設備の維持管理を推進し安定化を目指した。

■多様な来館者への接遇強化

▶新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策マニュアル、施設利用ガイドラインを作成し公開。安心して未来館をご利用いただけるよう、検温、消毒、3密の回避、入場制限等の具体的な対策をマニュアル、ガイドラインに基づき行った。



(再開館前)
スタッフによるシミュレーション

■施設運営における新型コロナウイルス感染症拡大防止への取組の強化

▶新型コロナウイルス感染対策ガイドラインの策定

Ver.1 を4月16日に公開。新型コロナウイルスの科学的な知見の刷新や社会状況に合わせて、12月までの間に ver.4 まで更改した。

特別監修：館田一博（東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授、日本感染症学会理事長、
新型コロナウイルス感染症専門家委員）

監修・助言：寺谷俊康（厚生労働省医系技官）

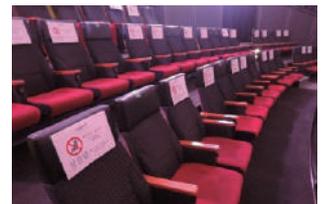


来館者検温実施の様子

■非英語圏外国人への対応整備

▶展示説明やサイン、アナウンス等の多国語対応

- ・展示のエントランスに、展示概要、体験方法等のオリエン動画（日英中国語の3カ国語）を設置
- ・「risk ≠ 0（リスクはゼロではない、だから）」のサイン約70種を3言語で設置、動画も3言語で上映
- ・多言語（日・英・中）による緊急放送設備の導入、アナウンス内容の更新検討



ドームシアター 密接対策

■インクルーシブな環境整備に向けた各種設備の更新・改修

▶インクルーシブな環境整備

執務室及び一部来館者エリアの点字ブロック、警告ブロックを新規敷設、更新を行い、視覚障害者の誘導環境を整備。



総合案内所 飛沫防止板

■Miraikan ビジョン 2030 の策定

第6期科学技術・イノベーション基本計画およびその先を見据え、新しい未来社会と新しいミュージアムのあり方を志向する、Miraikan ビジョン 2030 を策定。2021年4月の公表に向けた準備を行った。

II. 事業評価

日本科学未来館の運営や各種活動に関する目標と年度計画は、国立研究開発法人科学技術振興機構の中期計画に基づいて策定している。年度計画の達成状況は、「運営評価委員会」が評価をし、同時に改善提案を審議する。その改善提案は、日本科学未来館の事業運営に反映される。また、評価結果は「総合監修委員会」にも報告する。「総合監修委員会」では、今後の展示や活動の計画、運営方針などについて審議・監修が行われる。どちらの委員会も以下に示すように外部の有識者で構成されている。

▶運営評価委員会

2020年度の活動内容・実績について審議が行われ、総合評価「S」（計画通り履行した上で、日本科学未来館の基本理念等に資する新たな取組に着手し、かつ特に優れた実績を上げている）が得られた。

開催日：2021年2月19日

委員（所属・役職は当時）：

委員長 小林傳司（大阪大学 名誉教授）

委員 江守正多（国立環境研究所 地球環境研究センター 副研究センター長）

岸利治（東京大学 生産技術研究所 所長）

久保野永靖（株式会社 J-WAVE コンテンツプロデュース局

専任局長 エグゼクティブプロデューサー）

染川香澄（ハンズ・オン プランニング 代表）

本吉洋一（国立極地研究所 広報室 特任教授）

森俊哉（有限責任あずさ監査法人 専務理事）

森美樹（株式会社日本国際放送 コンテンツセンター アジア等地域展開統括部長）

▶総合監修委員会

今後の展示開発や科学コミュニケーション活動の計画などについて審議が行われるとともに、運営評価委員会の評価結果が了承された。

開催日：2021年3月9日

委員（所属・役職は当時）：

委員長 室伏きみ子（お茶の水女子大学 学長）

委員 佐々木かをり（株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長）

佐藤久史（日本公認会計士協会 専務理事）

柴崎敦子（株式会社フジテレビジョン 執行役員 番組審議室長）

高柳雄一（多摩六都科学館 館長）

中村桂子（JT 生命誌研究館 名誉館長）

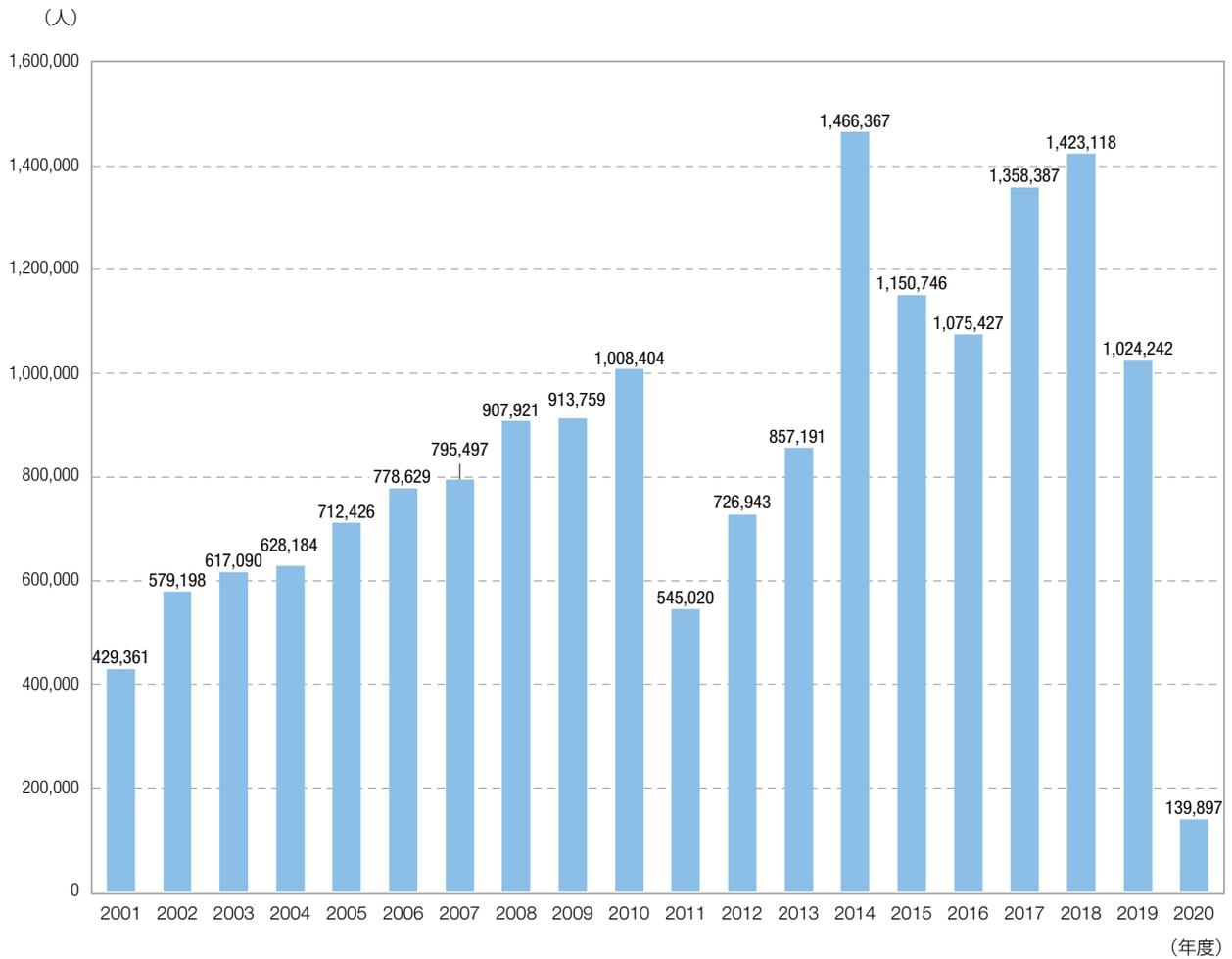
早川茂（トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長）

林良博（国立科学博物館 館長）

村井純（慶応義塾大学 教授）

Ⅲ. 来館者データ

▶ 来館者数推移



▶ 年代別内訳 (2020 年度)

